

2014年

年頭挨拶

一般社団法人 日本自動車車体工業会

会長 白根 武史

あけましておめでとうございます。

2014年の新春にあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年の車体業界を振り返りますと、生産台数は一昨年に終了したエコカー補助金の影響を挽回するまでには至らなかったものの概ね計画どおり推移した1年でありました。震災復興に必要とされる「働くくるま」の需要は引き続き高水準で推移するとともに、4月からの消費税引き上げ前の需要増への対応も含め、会員の皆様はお忙しい1年間であったと思います。

昨年1月～11月の当会会員生産台数を見ますと、上述のとおり全体では前年比3%減の219万台となりました。その内、委託生産車を除く当会特有の非量産車種は10%増の14.2万台と2年連続の前年超えとなりました。

この様な中、当会は「安全対応活動の推進」「環境対応自主取組みの推進」「中小企業支援活動の推進」「活性化活動の継続推進」を主要4項目と位置づけ皆様のご協力のもと活動し、それぞれにおいて成果を上げることができました。

「安全対応活動の推進」では、突入防止装置の基準改正に係る国際会議に委員を派遣し、国際自工会や欧州車工会との意見交換をはじめ、基準改正に対し当会としての意見を上げました。また、巻き込み防止装置の推奨基準の設定、JABIA規格化の推進、部会調査研究活動など、計画どおり進捗しております。

「環境対応自主取組みの推進」では、CO₂、VOC、産業廃棄物の削減とも、皆様の協力のおかげで目標を達成できる見込みです。環境負荷物質の使用削減はフォローアップの段階となっており、これまで以上に皆様のご理解とご支援が重要となっております。また、新環境基準適合ラベル、通称「ゴールドラベル」の運用も、会員への取得支援活動、社会へのPR活動とも積極的に進め、適合認定は121機種となりました。

「中小企業支援活動の推進」では、官公庁情報の適切な展開はもとより、税制改正や規制改革などの各種

要望の提出やその実現に向け関係団体と連携した取組みを推進しております。また、「高齢者雇用推進事業」として昨年企業向け、従業員向けにそれぞれ高齢者雇用推進のガイドブックを作成し配布するとともに、各地で説明会を実施してきております。

「活性化活動の継続推進」では、車体業界の認知度向上を図るため当会からの情報発信の充実に努めるとともに、昨年度策定した「車体業界の将来ビジョン」の具体化に向け、「チャレンジ5活動」をスタートさせ、「選択と集中」の事例/方向性の調査、及びコンソーシアムの実例調査を行い、計画どおり年度末には皆様に報告できる見込みです。

以上のように、皆様のご協力により事業計画は概ね計画どおり進捗させることができたと判断しております。

なお、当会正会員数は増加を続け、昨年4月以降新たに3社に入会頂き184社となり、大変ありがたく思っております。あらためて当会への期待も、年々大きくなってきていることを実感すると共に、責任の重さを強く感じております。

さて、昨年2020年の東京オリンピック開催も決まり、取り巻く環境変化は更に大きく、早くなってきております。そうした中、本年の経営環境を見てみますと、4月の消費税増税による景気への影響、TPP交渉の行方、新興国の成長鈍化、近隣国との関係など、懸念材料は続いております。日本再興戦略実行の年として具体的方策の着実な展開も期待でき、2020年の東京オリンピック開催に向けた取組みや震災復興活動の継続により、国内商用車の需要は昨年並みと考えています。

このような中、引き続き「会員に喜ばれる、頼りにされる車体工業会」を目指し活動を更に充実させていく所存ですので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員並びに関係各位のますますのご繁栄とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。